

総 評

私達の日常生活に憩いとやすらぎを与えてくれる花々、自然界は温暖化による気温上昇が進みつつあり、四季の花々にも開花状況他、時期的に微妙な影響が感じられます。心穏やかな観察眼のもとに、個々の花々に対する多くの視点作品を応募いただきました。趣味の写真を通じて、花々のたくましい生命力・神秘的な表情が、多岐にわたり感じ取れ、感銘を受けながら拝見しました。

審査の基点は主役のピント精度と脇役との画面構成力、背景処理の単純化などが重要です。画面構成のトリミングと色彩濃度調整も必要と思える作品がかなり見受けられました。

「最優秀賞:フラダンス」は画面に広がる繊細で動感のある構図と、色気のあるピンクの色合いが、ユニークで開花状態を思いめぐらしながら、吸い込まれる秀作です。選者三人の推奨作品です。特選(4点)・準特選(5点)は、視点が幅広くバラエティに富んだ花々作品が上位に選ばれ、スナップ賞には家族の団欒光景が和やかに記録された写真が多く、楽しく拝見させていただきました。

(二科会写真部理事・全日本写真連盟関西本部委員 秋田 隆司)

コンテストの審査でいつも感じることがあります。何を基準に選んでいくかということです。写真の善し悪しを決める判断の中で大きな位置を占めるのが印象度です。印象度を決定づける要素はたくさんあります。光を感じさせる露出の調節、陰と影の強弱から生まれる質感描写です。

花の一部が陰になっているだけで表情が変わり、立体感も出ます。光の美しさを生かすのは露出です。順光の安定した光よりも逆光、反射光、透過光などどちらかと言えば不安定な状態の方がよりフォトジェニックになります。光と陰影は表と裏です。陰は光が当たらないところ、影はものに光が当たって出来た黒い像です。陰の使い方で面白い写真になります。また、影は影自体が絵になることが多々あるのです。植物園の中で自然のライティングをいかすのは難しいことです。

最優秀賞のフラダンスはたった一夜だけ咲き、夜明けとともに散ってしまう幻の花サガリバナです。明暗差を大きくして落花した花を美しい構成で仕上げています。そのほか特選、準特選の作品も光は魔術師といった視点から捉えられたものが多くあり、楽しく審査させていただきました。

(芸北写真塾主宰・ 紺野 昇)
(敬称略)